



太陽に何が起きているか

常田佐久

文春新書 780+税 208頁

読み物
お薦め度
5
☆☆☆☆☆

ここ数年、「太陽の活動がどうもおかしい」という話題を耳にした方は多いことだろう。そればかりか、科学へ関心のある一般の方から、「黒点が少ないんですって」とか「磁場がおかしいんだって」と、天文学を志す私たちへ、話題の一つとして尋ねられた方も多いことだろう。最近の太陽の研究と地球環境の研究とが結びついて、太陽活動がどうやら地球環境へ影響を与えていることがわかってきた。また、人類が宇宙で実験を行う本格的な宇宙開発時代に入って、宇宙での活動に太陽の活動を気にしなければならない世の中になってきた。これらのことは、一般の方が、太陽活動を以前の単なる天体としての活動ではなく、人類や地球へ影響を与える身近な現象としてとらえるようになってきた証なのではないだろうか。

紹介する書籍は、タイトルどおり、今何が太陽に起きているのか、わかりやすく解説してくれる。著者は2008年に、なかなか活動が活発にならない太陽の活動について「ほんの少しですが心配です」と述べている。どう心配なのか、どう太陽が異常を起こしているのか、太陽観測の歴史を振り返りながら、具体的に解説されている、もう一つこの書籍で解説されるのは、太陽観測衛星「ひので」で見えてきた新しい太陽像だ。マスコミに取り上げられて脚光を浴びた太陽の四重極構造についても解説されている。これまでの研究とひのでの観測からわかった事実を紹介されたこの

四重極構造については、私自身はまだ本当にそうなのか慎重な立場に立っている。ほかにもひのでによって観測されたり計算によって導かれたりした太陽の事実がいくつも紹介されている。著者はひのでの生みの親の一人である。ひので衛星の実現が、いかに筆者の切望する装置であったのが、ひので衛星実現までのエピソードからひしひしと感じられる。そんな衛星によって、いくつもの太陽現象の新事実が発見されたり、解明されたりすることは、研究者にとってたいへんな喜びなのだろうと、うらやましく思う。

最後に太陽活動と地球環境のかかわりについて、最近の研究成果がいくつか紹介されている。その一つには生命誕生にかかわる太陽活動の話題もある。この本を読むと、私たちは地球という環境下に置かれているだけでなく、太陽圏と呼ばれる環境下にあると感じさせられるだろう。私はもっと広く果てしなく広がる宇宙ですら私たちの環境であると考え。カラフルではなく、科学用語が使われている専門書ではあるが、太陽活動の専門用語については、一つひとつ解説されており、科学好きの方なら、すらすらと読み物のように読めることであろう。最近の太陽研究の様子を、話題や知識の一つとして学んでおきたいなら、読むべき1冊である。

時政典孝（兵庫県佐用町生涯学習課）